

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム	評価対象年度	令和4年度
事業者名	株式会社藤子ミュージアム 代表取締役 水野 地子 東京都新宿区西新宿6丁目22番1号	評価者	市民文化振興室長
指定期間	令和3年4月1日～令和13年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

※□内は令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)実績

利用実績	<p>令和4年度総入館者数:278,092人〔前年:230,591人(令和元年度:363,707人)〕 開館からの総来館者数4,496,126人(平成23年9月3日～令和5年3月31日) (来館者数減の検証)</p> <p>【内訳】</p> <table border="1"> <tr> <td>大人・大学生</td> <td>181,823人</td> <td>65.4%</td> <td>〔前年:150,529人 65.3%〕</td> </tr> <tr> <td>高校生・中学生</td> <td>10,242人</td> <td>3.7%</td> <td>〔前年:7,448人 3.2%〕</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>62,388人</td> <td>22.4%</td> <td>〔前年:51,425人 22.3%〕</td> </tr> <tr> <td>無料入館者</td> <td>23,639人</td> <td>8.5%</td> <td>〔前年:21,189人 9.2%〕</td> </tr> </table> <p>うち外国人入館者数10,401人、3.7%〔前年:1,960人、0.8%〕 (※パンフレット配布数に基づく集計)</p>	大人・大学生	181,823人	65.4%	〔前年:150,529人 65.3%〕	高校生・中学生	10,242人	3.7%	〔前年:7,448人 3.2%〕	こども	62,388人	22.4%	〔前年:51,425人 22.3%〕	無料入館者	23,639人	8.5%	〔前年:21,189人 9.2%〕
大人・大学生	181,823人	65.4%	〔前年:150,529人 65.3%〕														
高校生・中学生	10,242人	3.7%	〔前年:7,448人 3.2%〕														
こども	62,388人	22.4%	〔前年:51,425人 22.3%〕														
無料入館者	23,639人	8.5%	〔前年:21,189人 9.2%〕														
収支実績	<p>1 指定管理事業 収入 458,820,318円〔前年:418,791,993円〕 支出 452,269,207円〔前年:409,074,037円〕 →収支決算 6,551,111円〔前年:9,717,956円〕</p> <p>2 自主事業収支 収入 223,829,030円〔前年:217,476,808円〕 支出 168,378,151円〔前年:137,270,930円〕 →収支決算 55,450,879円〔前年:80,205,878円〕</p> <p>3 当期収支差額 62,001,990円〔前年:89,923,834円〕</p> <p>4 次期繰越額 1,187,199,126円〔前年:1,125,197,136円〕※うち400,000,000円はH23藤子プロからの寄附金</p>																
サービス向上の取組	<p>●令和4年度は、藤子・F・不二雄ミュージアム開館11周年にあたり、令和3年7月から引き続き「10周年記念原画展」の会期を延長して開催した。約3か月ごとに展示原画を入れ替えるとともに、第4期「すこし・ふしぎなSF短編」「大ピンチ！ハラハラ・ドキドキシーン特集」(令和4年4月13日～7月3日)、第5期「居候がやってきた！」(令和4年7月9日～10月16日)とテーマ展示も行い、毎回異なるまんが原画により藤子・F・不二雄氏の多様で幅広い功績を届ける展示を実施した。</p> <p>●令和4年10月22日からは「藤子・F・不二雄のSF短編原画展～Sukoshi・Fushigiワールドへの招待～」を開催した。児童まんがをライフワークとしていた藤子・F・不二雄氏が、ドラえもん等の作品を連載する傍ら描いた大人向けの作品群を3期にわたり展示する企画で、令和4年度は第1期(令和4年10月22日～令和5年1月31日)、第2期(令和5年2月9日～6月25日)の展示を実施した。</p> <p>●Fシアターでは、令和3年9月から引き続き「ドラえもん&Fキャラオールスターズ すこしふしぎ超特急(エクスプレス)」の上映を行い、令和5年2月からは新作「ドラえもん&SF短編 宇宙(そら)からのオトシダマ」を上映した。新作作品は少年SF短編をベースとしており、企画展とも連動したことで人気作品となった。</p> <p>●新型コロナウイルス感染防止のため、音声ガイドの端末貸出を休止していたが、令和4年10月からは、来館者自身のスマートフォン上でアプリを使用して聞くことができる音声ガイドを復活させた。外国人来館者に向けて複数言語に対応した他、音声のみならず日本語字幕も表示され、聴覚障害者等も楽しめるよう工夫を行った。</p> <p><自主事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ミュージアムオリジナル玩具(ガシャポン)、スタンプの販売、クレーンゲームの設置 ■作品を鑑賞しながら理解を深められるよう、来館者に対し作品の説明やエピソードを収録した音声ガイドが、来館者のスマートフォン上でアプリを使用することで聞くことができる音声ガイドを復活させた。(スマートフォンを持たない子どもや高齢者等には貸出用端末を用意、外国人向けには英・中・韓の3か国語で提供) ■包装菓子等の販売 <p>3階「はらっぱ」においてミュージアムオリジナルのお土産販売を行ったほか、夏場は飲み物等を販売した。</p> <p><その他></p> <p>行政財産の目的外使用として「藤子・F・不二雄ミュージアム製作委員会」が運営しているカフェ・ショップと連携して、広報や案内を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ミュージアムカフェ(参考) <p>キャラクターにちなんだオリジナルメニューを揃えたカフェを営業し、各種フェアや季節毎の限定メニューなど工夫を凝らした新メニューを考案し提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ミュージアムショップ(参考) <p>オリジナルアイテムが豊富なグッズショップを営業し、各種フェアに合わせて新アイテムを取り揃えた。</p>																

3. 評価

※●は新規事項、○は継続事項

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点								
利用者満足度・事業成果	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	5 (R3 5) (R2 5)	8								
		利用者満足度は向上しているか											
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか											
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	4 (R3 4) (R2 4)	4.8								
		当初の事業目的を達成することができたか											
	魅力の向上	川崎市の魅力の増進に寄与しているか	6	5 (R3 5) (R2 5)	6								
	(評価の理由)												
	<p>【利用者満足度】</p> <p>●令和4年度は、藤子・F・不二雄ミュージアム開館11周年にあたり、令和3年7月から引き続き「10周年記念原画展」の会期を延長して開催した。約3か月ごとに展示原画を入れ替えるとともに、第4期「すこし・ふしぎなSF短編」「大ピンチ！ハラハラ・ドキドキシーン特集」(令和4年4月13日～7月3日)、第5期「居候がやってきた！」(令和4年7月9日～10月16日)とテーマ展示もを行い、毎回異なるまんが原画により藤子・F・不二雄氏の多様な幅広い功績を届ける展示を実施した。(再掲)</p> <p>●令和4年10月22日からは「藤子・F・不二雄のSF短編原画展～Sukoshi・Fushigiワールドへの招待～」を開催した。児童まんがをライフワークとしていた藤子・F・不二雄氏が、ドラえもん等の作品を連載する傍ら描いた大人向けの作品群を3期にわたり展示する企画で、令和4年度は第1期(令和4年10月22日～令和5年1月31日)、第2期(令和5年2月9日～6月25日)の展示を実施した。(再掲)</p> <p>●期間限定(令和4年9月28日～10月16日、令和5年2月22日～3月20日)で展示室Ⅱの原画撮影を可能とし、アンケート等を通じて寄せられた来館者の要望に応じて土日祝日を含めた全日を対象とした。</p> <p>○お客様アンケート(手書き式:1,237枚、WEB:3,514件)を実施し、これらの情報をスタッフ全員で共有するとともに運営に反映させている。キャラクターへの愛情を持った、展示、カフェ、ショップに関する好意的で前向きなご意見を多数いただいている。</p> <p>○アンケートの結果から、来館回数や来館者のより詳細な情報の入手方法、来館に当たって楽しみにしていること、ショップ、カフェなどに対する要望など来館者の動向・ニーズを把握するとともに、ホームページやSNSで積極的に最新情報を発信した。</p>												
	<p>【事業成果】</p> <p>●Fシアターでは、令和3年9月から引き続き「ドラえもん&Fキャラオールスターズ すこしふしぎ超特急(エクスプレス)」の上映を行い、令和5年2月からは新作「ドラえもん&SF短編 宇宙(そら)からのオトシダマ」を上映した。新作作品は少年SF短編をベースとしており、企画展とも連動したことで人気作品となった。(再掲)</p> <p>○ホームページやSNSから情報を得る入館者が多いことを踏まえ、3種類のSNSを活用し、各媒体にあわせて掲載画像を変更するなどの工夫をしながら、ミュージアムをはじめ、生田緑地や市・区など地域の話題・出来事等を発信するホームページブログ及び公式SNSから、最新の情報配信を実施し、フォロワー数等を着実に増加させている。</p>												
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">(令和5年3月末)</td> </tr> <tr> <td>Facebook</td> <td>「いいね」数 約33,600[前年:約32,000]</td> </tr> <tr> <td>Twitter</td> <td>フォロワー数 約60,000[前年:約54,000]</td> </tr> <tr> <td>Instagram</td> <td>フォロワー数 約38,600[前年:約38,000]</td> </tr> </table>						(令和5年3月末)		Facebook	「いいね」数 約33,600[前年:約32,000]	Twitter	フォロワー数 約60,000[前年:約54,000]	Instagram
(令和5年3月末)													
Facebook	「いいね」数 約33,600[前年:約32,000]												
Twitter	フォロワー数 約60,000[前年:約54,000]												
Instagram	フォロワー数 約38,600[前年:約38,000]												
<p>【魅力の向上】</p> <p>●川崎市との連携により、「かわさき市政だより」をはじめとする市の広報媒体や、「LOVEかわさき」「かわさきホット☆スタジオ」等での広報を実施するとともに、藤子プロとの連携により、小学館が発行する「コロコロコミック」等の雑誌や、テレビ朝日が放送する「ドラえもん」等の番組をはじめとする各種媒体を通じて全国的な広報を行うなど魅力発信につなげた。</p> <p>●「藤子・F・不二雄のSF短編原画展」開催に伴い、小学館刊行の「SF短編シリーズ」新刊にミュージアム情報を掲載した他、NHKの「SF短編シリーズ」ドラマ化においてはPR番組制作にあたりミュージアム館内での撮影を行うなど、企画展と連動した広報を実施することで、全国的な広報を行うなど魅力発信につなげた。</p>													

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	3 (R3 3) (R2 3)	4.8	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	4 (R3 4) (R2 4)	4.8	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	4 (R3 4) (R2 4)	4.8	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	<p>【効率的・効果的な支出】 ○指定管理事業において、事業を行うにあたって必要な経費を支出できている。</p>					
<p>【収入の確保】 ●新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことにより、入館者数が令和3年度と比べて増加し、それに伴い入館料収入が昨年度に比べ大幅に増加した。 ○目的外使用許可によりミュージアム製作委員会が運営しているミュージアムショップ・カフェについて、施設側でショップ・カフェ関連の問い合わせ対応を多数行っていることや、魅力あるミュージアム運営がショップ・カフェの利用を促進させていることから、同委員会から給与負担金や展示物負担金を得ている(給与負担金…給与手当の1/2相当額 展示物負担金…展示替えに係る費用の1/2相当額)。 ○自主事業においては、協賛金、企画展と連動した限定まんの販売、ガシャポンやスタンプメーカーなどのグッズ販売、どら焼きや川崎銘菓煎餅包装菓子の販売の取組もあり、約5,540万円の黒字となるなど、入館料以外での収入源を確保し、安定した事業運営に寄与している。 ●水道光熱費をはじめ物価高騰の影響による支出増加はあったが、市の補填を受けることなく指定管理事業において、約655万円の黒字となった。</p>						
<p>【適切な金銭管理・会計手続】 ○税理士の有資格者を職員として配置するとともに、会計参与(税理士)のアドバイスを受けながら処理しており、適切かつ厳格なチェック体制のもと金銭管理・会計手続を行っている。</p>						

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	指定管理業務や自主事業が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	8	5 (R3 5) (R2 5)	8
		基本理念等に基づき、適切なサービスが提供されたか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4 (R3 4) (R2 4)	4.8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4 (R3 4) (R2 4)	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	地域貢献・他施設との連携	地域や生田緑地の施設等との連携は適切に実施されたか	4	4 (R3 4) (R2 4)	3.2
(評価の理由)					
<p>【適切なサービスの提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染防止のため、音声ガイドの端末貸出を休止していたが、令和4年10月からは、来館者自身のスマートフォン上でアプリを使用し、聞くことができる音声ガイドを復活させた。外国人来館者に向けて複数言語に対応した他、音声のみならず日本語字幕も表示され、聴覚障害者等も楽しめるよう工夫を行った。(再掲) ●お客様アンケートを手書き式とWeb方式の併用で実施した。(再掲) ●期間限定(令和4年9月28日～10月16日、令和5年2月22日～3月20日)で展示室Ⅱの原画撮影を可能とし、アンケート等を通じて寄せられた来館者の要望に応じて土日祝日を含めた全日を対象とした。 ○各休み期間においては条例上火曜日の休館日にも開館し、利用者ニーズに対応した館の運営を行っている。 ○聴覚障害者の方にも、展示を深く楽しんでいただけるよう、解説内容を文字に起こした“読むガイド”を日本語(おとな・子ども)、中国語、英語、韓国語版を用意した。 ○外国人入館者に対応するため、3か国語(英中韓)館内案内リーフレットの配布、Fシアターの短編映像は英語字幕付きとしている。 ○外国人から問い合わせの多い周辺の飲食店情報マップの作成・配布や、チケット購入方法がわからず直接来館した人向けの多言語版のチケット購入方法チラシの配布を行っている。 <p>【業務改善によるサービス向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○熱中症対策として、夏の期間には入口と屋外にミスト装置を設置した他、日傘の貸出しや飲料水の販売を行った。 <p>【利用者の意見・要望への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート(手書き式:1,237枚、WEB:3,514件)等で寄せられた来館者の意見を踏まえ、カフェ・ショップ運営事業者と共有し、新メニューや新商品の開発につなげ、総体としてミュージアムの魅力向上につなげた。 <p>【地域貢献・他施設との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開館10周年を記念して制作し、ミュージアムの原画展示をコンパクトに再現した『ポケットミュージアム』について、子どもたちにミュージアムを知ってもらうきっかけとするため、市と連携して宮前区内及び麻生区内の市立小学校にて巡回展示を開催した。 ●生田緑地にある美術館・博物館等と連携した「夏休みスタンプラリー」を3年ぶりに実施し、生田緑地近隣の回遊性の向上に貢献した。 ○令和元年度から引続き市や教育委員会と連携し、子どもたちに「はじめての美術館体験」としてミュージアムで作品を鑑賞してもらうため、市内小学校の校外学習を無料で受入れ、25校 2,572人(前年:20校 約1,997人)が来館した(市からの委託事業)。また、来館した全ての小学生に「またきてねチケット」をプレゼントした。(来館受入に当たって、美術館としての鑑賞マナーや展示の見どころの解説を、増築棟ドラム棟(平成31年1月に整備)で実施していたが、新型コロナのため休止。) ○ミュージアム周辺に設置されているキャラクターのモニュメントや橋の欄干のレリーフなどの清掃を定期的実施した。 ○生田緑地の回遊性に向け、市と連携して制作したミュージアム周辺地域の周遊マップ(日本語、英語、中国語)を配布した。 ○市主催の川崎市フットボール交流大会を「藤子・F・不二雄ミュージアムカップ」として協力。参加した子どもたちをミュージアムに招待する「またきてねチケット」をプレゼント。 <p>(新型コロナウイルス感染症の影響によりR4年度は中止した事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域と密着した身近なミュージアムとなるよう、地元商店会の夏祭りや区民祭に出店。 					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	4 (R3 4) (R2 4)	4.8
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか	2	4 (R3 4) (R2 4)	1.6
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか			
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換を行っているか	4	4 (R3 4) (R2 5)	3.2
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか			
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	4	3 (R3 3) (R2 3)	2.4
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか			
	<p>(評価の理由)</p> <p>【適正な人員配置】 ○ミュージアムの基本理念でもある「ホスピタリティ(おもてなし)」を実現するため、コロナ禍における適切な人員体制に切り替えを行い運営している。また、経理業務に税理士資格を持った職員を配置しているほか、学芸員の資格を取得している広報職員が、ミュージアムや作品により精通した職員として展示・企画部門の業務を担当するなど、より良い施設運営を目指した効果的な人員配置を行っている。</p> <p>【連絡・連携体制】 ○市所管部署との定例会議を実施するとともに、必要に応じて適宜、市担当との打合せを実施し、運営上の課題等に関する共有及び調整を行うなど、より良い施設運営に向けた打ち合わせを年間を通じ行った。</p> <p>【担当者のスキルアップ】 ○職員採用においては、藤子氏及び藤子氏の作品が大好きであることを条件とするほか、徹底したおもてなしの心を持った職員を育てるため、各種マニュアルの充実を図るとともにOJTによる技術研修など様々な教育・研修を実施しており、来館者へ質の高いサービスを提供できている。</p> <p>【安全・安心への取組】 ●大規模災害による浸水被害に備え、新たに止水版を導入した。 ○事故・災害発生時の対応マニュアルに基づき、地震、火災、大雨・台風・水害など災害別の避難誘導訓練や、停電時を想定した訓練、消防設備取扱訓練、救急救命講習を実施するなど、多くの来館者を受け入れる施設として毎月多様な訓練・取組を実施した。また、令和元年5月に登戸駅近くで発生した事件を踏まえ、多摩警察署から助言を受けながら安全対策のマニュアルを作成している。 ○新型コロナウイルス感染症に対しては、国や県及び市、関係機関等の方針を踏まえ、必要な感染症対策を徹底して行い、スタッフ感染時や濃厚接触者発生時の対応マニュアル、館内消毒マニュアルを作成したことで、迅速に対応できる体制を整備した。また、ミュージアム入口にサーモグラフィカメラを設置して来館者の検温を実施した他、館内各所への消毒液の設置や、スタッフによる開館中のドアノブ等の除菌作業を実施した。 ○猛暑に対応するため、入口と屋外にミスト装置を設置した。(再掲)</p> <p>【環境負荷の軽減】 ○開館時に作品を忠実に演出するために演色性の高い展示用LED照明を採用し、2012年度「省エネ・照明デザインアワード」を受賞し、継続して省電力化を推進している。 ○ミュージアム設置のガシャポンカプセルはメーカーで回収し、再資源化を行っている。 ○屋上に太陽光発電装置を設置し、館内での消費電力の一部を発電によって賄っている。</p>				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	4 (R2 4) (R1 4)	14.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
		<p>(評価の理由)</p> <p>○施設・設備の保守管理については、来館者の安心・安全・快適性を確保するとともに効果的・効率的な施設の維持管理を行うため、各種設備のマニュアルのほか中長期修繕計画なども参考にした維持管理計画に基づき実施している。また、空調設備など使用頻度の高いものは設備の仕様以上に清掃を行っている。 ○清掃業務・警備業務・植栽管理など施設・設備の保守管理業務については、専門業者に再委託し適正に実施され、来館者が快適に過ごせるよう施設を維持している。館外の落ち葉等の清掃に当たっては、桜の花びらや落ち葉を使い、キャラクターを描き、来館者へ基本理念である「遊びココロ」による演出を行っている。 ○備品管理については、基本協定に基づき備品台帳を整備するなど適切に管理されており、ミュージアムで使用される備品や消耗品はミュージアムの一体感・雰囲気づくりを考えて用意されている。 ○衛生面については、常に館内外の「清潔さ」を保つよう配慮されており、高いレベルで管理されている。 ○新型コロナの感染症対策として、入館者数の制限、入館時間を1日4回から7回に増やすことによる入館回の分散の実施、一部施設の利用停止、シアターの座席数の制限などの対策を講じた上で、館内での感染症予防のための特設ページをホームページに掲載することで、感染症対策の事前周知に取り組んでいる。また、入口にサーモグラフィカメラを設置することで、全ての来館者へのスムーズな検温実施、施設各所にミュージアムオリジナルのアルコール消毒ポンプを設置したほか、手すり・ドアノブ等接触箇所の消毒、受付、ショップ・カフェのレジ等へのアクリルパーテーションを設置するなど、感染症対策を徹底して実施している。</p>			

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
----	----	-----	----	------	-----

4. 総合評価

評価点合計	82	評価ランク	A
	(R3 82.0)		(R3 A)
	(R2 82.8)		(R2 A)

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市藤子・F・不二雄ミュージアムは、「多摩丘陵の恵まれた自然の中で、川崎市ゆかりの漫画家藤子・F・不二雄氏の作品の展示等を通じて、当該作品に込められたメッセージを子どもをはじめとするすべての世代に伝えることにより、市民の文化芸術活動の振興及び本市の魅力の増進に寄与する」ことを目的として設置した芸術文化施設である。

基本理念として、藤子・F・不二雄氏の作品等に込められた「夢」「希望」「勇気」「友情」「大いなる好奇心」そして「人を愛する優しい気持ち」などのメッセージを幅広い世代に伝えていくことを掲げており、具体的には「まんが文化」「遊びココロ」「SF―すこしふしぎ―」「コミュニケーション(ふれあい)」「新しい発見」「自然」「ホスピタリティ(おもてなし)」をミュージアムづくりの基本としている。

全体評価にあたっては、これらの目的及び基本理念を踏まえて評価を行う。

令和4年度は第2期指定管理期間の2年目である。

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人観光客をはじめとする旅行者等の減少などの影響を受けたものの、結果として来館者数は昨年度の実績を上回った。コロナ禍における感染予防として不要不急の外出自粛や、いわゆる「3密」の回避と、公立美術館としての使命の両立を模索しながらの運営を強いられた中で、スマートフォンのアプリを活用した音声ガイドの実施や、WEBアンケートの導入など、時代の変化に合わせた取組を積極的に行った。

また、開館11周年を迎え、初の試みとして大人向け作品の企画展「藤子・F・不二雄のSF短編原画展～Sukoshi・Fushigiワールドへの招待～」を開催した。

広報についても、コロナ禍の中、藤子プロや関連企業とも連携し、積極的に行った。

新型コロナウイルス感染症拡大に対しては、継続して、国や県及び市、関係機関等の方針を踏まえ、必要な感染症対策を徹底して行い、スタッフ感染時や濃厚接触者発生時の対応マニュアル、館内消毒マニュアルを作成したことで、迅速に対応できる体制を整備した。

指定管理業務としては、主にミュージアムの展示企画業務、施設運営業務、維持管理業務、その他管理運営に必要な業務があるが、各々の分野において、より良いミュージアムづくりを行っている。

○展示企画業務

ミュージアム開館11周年にあたり令和3年7月から引き続き「10周年記念原画展」の会期を延長して開催した。約3か月ごとに展示原画を入れ替えるとともに、第4期「すこし・ふしぎなSF短編」「大ピンチ！ハラハラ・ドキドキシーン特集」(令和4年4月13日～7月3日)、第5期「居候がやってきた！」(令和4年7月9日～10月16日)とテーマ展示も行い、毎回異なるまんが原画により藤子・F・不二雄氏の多様な功績を届ける展示を実施した。

また、令和4年10月22日からは「藤子・F・不二雄のSF短編原画展～Sukoshi・Fushigiワールドへの招待～」を開催した。児童まんがをライフワークとしていた藤子・F・不二雄氏が、ドラえもん等の作品を連載する傍ら描いた大人向けの作品群を3期にわたり展示する企画で、令和4年度は第1期(令和4年10月22日～令和5年1月31日)、第2期(令和5年2月9日～6月25日)の展示を実施した。

○施設運営業務

指定管理事業においては、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、来館者の安全、安心を第一に考えた対応を行っている。また、利用者ニーズに応じた運営を行うとともに、利用者からの意見を踏まえ業務改善を行うなど、より良いミュージアム運営に向けた取組を進めている。

○維持管理業務

各種設備点検や各種訓練等を確実に実施し、来館者が多い施設として危機管理意識を高く持ち、点検・訓練を行うとともに、安心して来館できる施設の維持に努めている。また、清掃など衛生面についても全体として高い水準で業務を遂行できている。

以上のことから、令和4年度の全体評価としては、持続的・安定的な運営を行うとともに、引き続き質の高いサービスを来館者に提供しており、適正に指定管理業務を実施したと言える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

①令和4年度も引き続きコロナ禍での運営となり、外国人観光客の減少などの影響により、入館者数はコロナ禍前の令和元年度比約76.5%となった。新型コロナウイルス感染症は引き続き、施設運営にも影響が生じると考えるが、こういう時世であるからこそ、来館者の安全と安心を維持しながら、藤子ミュージアムの基本理念である藤子・F・不二雄氏の作品等に込められた「夢」「希望」「勇気」「友情」「大いなる好奇心」そして「人を愛する優しい気持ち」などのメッセージを幅広い世代に伝えていただきたい。

②令和4年度に開館11周年を迎えた。今後のミュージアムの持続的・安定的な運営に向け、ミュージアムの魅力をより多くの方々に感じてもらうよう、アンケート等を通じて客観性が保たれた満足度を調査するとともに、引き続き、利用者満足度や利用者のニーズを把握・分析しながら、リピーターの確保や観光客の入館に繋がる取組や地域の方々に愛着を感じてもらえるような取組に努めていただきたい。

③本市が取り組む、かわさきパラムーブメントの理念を踏まえ、国内外問わず本市の魅力発信拠点となるよう、本市の広報・観光担当課とも密接に協力・連携するとともに、指定管理者ならではのウハウハ及びネットワークを活用し、誰もが楽しめる「まんが文化」をはじめとするミュージアムの魅力を活かした管理運営に努めていただきたい。

④新型コロナウイルス感染症に対し、行政及び関係機関等の方針を踏まえつつ、引き続き必要な感染症対策を適切に実施しながら、コロナ禍の状況においても人々の生活を豊かにするために、美術館としての役割を果たすことができるよう、館の魅力を精力的に発信していただきたい。